

July 19, 2026

## 柔和・御霊の実

詩篇 37:7-11

37:7 主の前に静まり 耐え忍んで主を待て。／その道が栄えている者や／悪意を遂げようとする者に腹を立てるな。

37:8 怒ることをやめ 憤りを捨てよ。／腹を立てるな。それはただ悪への道だ。

37:9 悪を行う者は断ち切られ／主を待ち望む者 彼らが地を受け継ぐからだ。

37:10 もうしばらくで 悪しき者はいなくなる。／その居所を調べてもそこにはいない。

37:11 しかし 柔和な人は地を受け継ぎ／豊かな繁栄を自らの喜びとする。

「神は善いお方であるのに、なぜ、この世に悪がはびこっているのか」、「なぜ正しい人が苦しむのか」——これは、いつの時代の信仰者も抱えてきた大きな疑問です。詩篇 94:3 には、「主よ いつまでですか 悪しき者が／いつまでですか 悪しき者が勝ち誇るのか」とあり、エレミヤ 12:1 にも「なぜ、悪者の道が栄え、裏切りを働く者がみな安らかなのですか」とあります。詩篇 37 篇は、そうした疑問に答えるために、また、社会の不正に苦しめられている人々を励ますために、ダビデによって書かれました。この詩は、ヘブライ語のアレフからタウまでアルファベット 22 文字の順で各部分が始まる「いろは歌」になっていて、技巧をこらした教訓的なものですが、その教訓は、ダビデの体験に基づいたもので、説得力があります。ダビデは多くの敵に命を狙われました。しかし、そのつど、神に信頼して神の助けと救いを体験してきました。この詩篇はそ

うしたダビデの体験の証しですので、最初に、この詩篇を「ダビデの証し」として学びます。それから、自分の証しを通して、私たちに教えたこと、「ダビデの教え」を学びます。

## 一、ダビデの証し

ダビデは王になる前、イスラエルの初代の王、サウルに仕えていました。サウルは自分の娘をダビデに嫁がせ、婿にしたのですが、ダビデが自分より実力も人気もあるのをねたみ、何度もダビデを殺そうとしました。そのため、ダビデは幾人かの部下といっしょに放浪生活をしなければならませんでした。サウルはそんなダビデをしつこく追い回しました。

あるとき、サウルは將軍アブネルを伴い、三千人の精鋭とともにジフの荒野にいたダビデを追ってきました。それを知ったダビデは側近のアビシャイと一緒にサウルの陣営に忍び込みました。そこでは、サウルも、サウルを守るはずのアブネルと他の兵士もぐっすり眠っていました。それを見たアビシャイはダビデに言いました。「神は今日、あなたの敵をあなたの手に渡されました。どうか私に、槍で一氣に彼を地面に突き刺させてください。二度することはしません。」（サムエル第一 26:8）けれどもダビデはアビシャイを制して言いました。「主は生きておられる。主は必ず彼を打たれる。時が来て死ぬか、戦いに下ったときに滅びるかだ。私が主に逆らって、主に油注がれた方に手を下すなど、絶対にあり得ないことだ。さあ、今は、枕もとにある槍と水差しを取って、ここから出て行こう。」（サムエル第一 26:10-11）

ダビデにはこの他にもサウルを害することができる機会が何度かありました。しかし、ダビデはサウルを手にかけることは

しませんでした。サウルがダビデを殺そうとしても、サウルを殺そうとはしなかったのです。そのことは、7-8 節にこう言い表されています。「主の前に静まり 耐え忍んで主を待て。／その道が栄えている者や／悪意を遂げようとする者に腹を立てるな。怒ることをやめ 憤りを捨てよ。／腹を立てるな。それはただ悪への道だ。」（7-8 節）ダビデはアビシャイのように感情で行動しませんでした。神の前に正しいことをしようと努め、サウルの命運を神に任せました。その結果、サウルはペリシテ人との戦いで倒れ、サウルの王国はダビデが継ぐことになったのです。9 節に「悪を行う者は断ち切られ／主を待ち望む者 彼らが地を受け継ぐからだ」とあるのも、そうした体験の証しの言葉です。

ダビデのもう一つの大きな危機は息子の一人、アブサロムが起こしたクーデターでした。それを知ったダビデはエルサレムから逃れました。その逃れる途中、サウルの子孫の一人がさかんにダビデを呪い、ダビデや家来たちに石を投げつけました。このときもアビシャイが「この死んだ犬めが、わが主君である王を呪ってよいものでしょうか。行って、あの首をはねさせてください」（サムエル第二 16:9）と言いました。しかし、ダビデはそれを許しませんでした。そして、こう言いました。「見よ。私の身から出た私の息子さえ、私のいのちを狙っている。今、このベニヤミン人としては、なおさらのことだ。放っておきなさい。彼に呪わせなさい。主が彼に命じられたのだから。おそらく、主は私の心をご覧になるだろう。そして主は今日の彼の呪いに代えて、私に良いことをもって報いてくださるだろう。」（サムエル第二 16:11-12）この言葉のとおり、主はダビデをエルサレムに戻されました。アブサロムにはアヒトフェル

という当代随一のすぐれた参謀がついていたのですが、神はその計略を砕き、クーデターは失敗に終わりました。5-6節でダビデは言いました。「あなたの道を主にゆだねよ。／主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。主は あなたの義を光のように／あなたの正しさを 真昼のように輝かされる。」どんなに賢そうに見えても人間の計略は神のご計画を覆すことはできないのです。

## 二、ダビデの教え

このようにダビデは、神が善いお方であり、神に信頼する者のために善いことをしてくださることを体験し、証ししました。その体験に基づいて、世の悪や不正に苦しむとき、どうすべきかを教えたのです。「どうすべきか」といっても、「こうしなさい」、「ああしなさい」ということではありません。28節に「敬虔な人」、37節に「全き人」、「直ぐな人」、「平和の人」という言葉があるように、「敬虔な人」、「全き人」、「直ぐな人」、「平和の人」でありなさいと教えているのです。「何をすべきか」(Doing)の前に、神の前に「どうあるべきか」(Being)を教えているのです。

そして、そうした人は「愛」、「喜び」、「平安」、「寛容」、「親切」、「善意」、「誠実」、「柔和」、「自制」が備わった人です。この詩篇にはガラテヤ 5:22-23にある「御霊の実」がすべて出てきます。

3-4節にこうあります。「主に信頼し 善を行え。／地に住み 誠実を養え。主を自らの喜びとせよ。／主はあなたの心の願いをかなえてくださる。」ここに「善意」、「誠実」、「喜び」の三つがあります。

7-8 節には「主の前に静まり 耐え忍んで主を待て。／その道が栄えている者や／悪意を遂げようとする者に腹を立てるな。怒ることをやめ 憤りを捨てよ。／腹を立てるな。それはただ悪への道だ」とあります。御霊の實の「寛容」は「忍耐」とも訳せますので、「耐え忍んで」というところでそれが教えられており、「主の前に静まり」というのは「平安」を意味し、「腹を立てるな」、「怒ることをやめよ」、「憤りを捨てよ」というのは「自制」につながります。

けれども、この詩篇では、9つの「御霊の實」中で「柔和」が一番大切なものとして教えられています。それは「柔和」には「地を受け継ぐ」との約束が伴っているからです。11 節にこうあるとおりです。「しかし 柔和な人は地を受け継ぎ／豊かな繁栄を自らの喜びとする。」

ヘブライ語の「柔和」は、もともとは、貧しく、弱く、押さえつけられて低くされた状態を指す言葉でした。そこから、自分の貧しさ、弱さ、低さをそのまま認めて神の前にへりくだり、素直な心で神のことばを受け入れ、人に対しても謙虚で柔らかい態度で接することを意味するようになりました。新約のギリシャ語でも「柔和」はそういった意味で使われています。

ダビデが苦しみの中でとった態度はじつに「柔和」な態度でした。ダビデはイエスの雛形と言われますが、イエスはさらに柔和なお方です。イエスは言われました。「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからです。」（マタ

イ 11:28-30) ですから、「柔和」の意味を知りたいければイエスを見ればいいのです。イエスは「柔和」そのものです。天の栄光のうちにいられた神の御子なのに、人となられ、さらに罪人にさえなられました。イエスよりも低く、貧しく、へりくだった人は誰もありません。イエスはそれによって私たちのために救いを勝ち取ってくださいました。

この「柔和」なイエスのもとに行くのに、私たちは高慢であってはなりません。私たちも、素直に自分の罪を認め、へりくだった「柔和」な心が必要なのです。それによって、「わたしのもとに来なさい」と招いてくださるイエスのもとに行くのです。主は、そのような人に「地を受け継ぐ」との約束を与えてくださいます。してくださいます。

詩篇 73 篇はダビデの証しと教訓です。しかし、それは同時に神の言葉です。神は、ダビデの生涯を通してイエスを示し、ダビデの詩を通して語っておられるのです。「しかし 柔和な人は地を受け継ぎ／豊かな繁栄を自らの喜びとする。」（11 節）イエスが山上の説教で「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐからです」（マタイ 5:5）と言われたのは、明らかにこの詩篇からの引用です。イエスはかつてダビデを通して預言されていたことがご自分によって成就したと、山上の説教で宣言されたのです。

柔和な主のもとに柔和な心で向かう者は、なぜこの世に悪と不正がはびこるのか、なぜ正しい人が苦しめられるのかについて答えを得ることができます。その答えは、辞書の定義や事典の説明のようにひとことで、また短い文章で言い表せるものではありません。まして、数学の数式で表せるものではありません。しかし、私たちのたましいには、イエスが「柔和な者は幸

いです。その人たちは地を受け継ぐからです」と言われた約束、また約束の成就の言葉でその答えが書き記されているのです。聖霊がくださる「柔和」な心で、この約束を受け止めましょう。それでも心が騒ぐことがあるなら、詩篇37篇を最初から最後まで、何度か、ゆっくりと唱えてみるとよいでしょう。心に落ち着きが与えられ、自分が何をすべきか、また、どうあるべきかを教えていただけることでしょう。

### （祈り）

父なる神さま、「柔和な人は地を受け継ぐ」——ダビデが証しし、主イエスが成就されたこの言葉を感謝します。曲がった世を真っ直ぐに生きようとするとき、私たちはどこかでぶつかり、はじき飛ばされます。しかし、そんなときも、御霊の實の「柔和」を私たちに与えてください。それによって、私たちが試練を乗り越え、あなたのくださる平安のうちに、誠実な歩み続けることができますよう助けてください。「わたしは柔和だ」と言われたに倣って、私たちも柔和な心であなたに従い、この世を生き抜くことができますように。聖霊の助けを信じ、イエスの御名によって祈ります。